

宿谷氏、事蹟集成の事

(『宿谷氏の賦』18章より抜粋)

宿谷氏の存在が明らかになるのは、平安時代末期初祖とされる秩父平武者太郎行俊からである。それ以前は、行俊の祖父行高（児玉党）が武蔵の豪族秩父氏の養子となり、その支配下にあった。従って、事蹟集成は、初祖秩父平武者太郎行俊からと言う事になる。

古代 平安時代

「宿谷庄ト唱フ、村名ノ起リヲ尋ルニ村民権左衛門カ先祖宿谷太郎行俊ナルモノ隣村葛貫ニ住シテ當村ヲ開発スト云リ」(新篇武蔵風土記稿)

久寿2年(1155)8月

武者太郎行俊、武蔵大蔵館(嵐山町)合戦に参陣(地元伝承)

保元元年(1156)

武者太郎行俊、保元の乱に参陣(保元物語、地元伝承)

平治元年(1159)

武者太郎行俊、平治の乱に源義朝麾下の十七騎の一人として参陣、奮戦の末御所中御門で討死(平治物語、地元伝承、同氏系図)

治承4年(1180)10月

行俊嫡子、宿谷太郎重堯、10月、秩父(畠山)重忠に従い武蔵国長井の渡で武蔵武士らと源義朝に帰順、本領安堵鎌倉殿御家人となる(同氏系図)

寿永4年(1182)

文治3年(1187)

太郎重堯、畠山重忠に従い平氏追討に参陣(同氏系図)

文治5年(1189)

太郎重堯、畠山重忠に従い奥州征討に参陣(同氏系図)

中世 鎌倉時代

建久6年(1195)3月

太郎重行、将軍頼朝夫妻、奈良東大寺供養に随兵として従う(吾妻鏡)[町史は重氏としている]

元久2年(1205)6月

鎌倉北条氏対御家人畠山重忠の確執、二俣川の変に宿谷氏一族の狛島氏畠山氏に従い討死(秩父地方史)

建暦3年(1213)3月

太郎重行、次郎行門[町史は重氏、行門]、鎌倉北条氏対侍所別當和田氏の確執和田合戦に和田氏に味方したとされ捕れたが、将軍実朝の計いで許され剃髪「不染」と号す(吾妻鏡)

承久3年(1221)

次郎左衛門尉重氏、公家(朝廷)対幕府の対立、承久の乱に幕府軍の一將として出陣、宇治川の合戦において兜首五つをあげる抜群の戦功により鎌倉北条氏得宗御内人(被官)となる(承久記)戦賞として幕府より三条小鍛冶宗近の太刀一口を賜う(地元伝承)

嘉禎2年(1236)

次郎左衛門尉行時、先の承久の乱勲功追賞の沙汰により、幕府要職寺社奉行に補任される(同氏系図)

[町史は行時が最初に奉行職に就いた年を建長4年(1252)としている]

宝治元年(1247)

次郎左衛門尉行時、北条得宗家対御家人三浦氏との確執、宝治合戦に得宗家に従い三浦氏を攻める(同氏系図)

建長2年(1250)1月

次郎忠義、幕府正月行事の中の騎馬武者に列記あり(吾妻鏡)

文応元年（1260）7月

左衛門尉光則、日蓮上人自責、立正安国論を北条時頼に奏上す（吾妻鏡）

弘長3年（1263）11月

左衛門尉光則、得宗北条時頼終焉の場に尾藤太浄心入道と二人伺候す、死後直ちに剃髪最信と号す（吾妻鏡）

文永5年（1268）

左衛門尉光則、日蓮上人が幕府高官及び鎌倉諸寺に宛てた、いわゆる、日蓮上人十一通御書、寺社奉行左衛門尉光則に宛てた一通を受ける（高祖遺文録）

文永8年（1271）

左衛門尉光則、日蓮上人竜ノ口法難、幕議により佐渡配流の手配に及ぶ、弟子日朗、日進ほか四名、邸後の土牢に押籠める（日蓮上人書牘）

文永10年（1273）

左衛門尉光則、2月、幕議によって日蓮上人赦免となる。光則家臣七騎に命じ日蓮上人を無事鎌倉に迎える（伝承）。5月、日朗上人以下五名赦免となり光則、日朗上人に帰依、法名、日績を授けられる。長谷の自邸を、日朗上人開山として、行時山光則寺を開基（本圀寺文書、同氏系図、伝承）

弘安8年（1285）11月

左衛門尉光則、北条得宗家対御家人安達氏の確執、霜月騒動に得宗家筆頭として参戦（同氏系図は、本騒動を弘安合戦としている）

元弘3年（1333）

四郎行惟、鎌倉幕府崩壊、北条得宗家と東勝寺に自刃、嫡子太郎重頭（5才）在府の家臣に守られ本貫地宿谷に落ちのび、討手に備えて武備を固める。同氏鎌倉落ち（同氏系図、伝承）この頃鎌の平城（宿谷城）構築か

中世 南北朝時代

貞和2年（1346）

本貫地宿谷に六角塔婆建立される。

貞和4年（1348）1月

太郎重頭、高師直に従い河内国四条畷に南朝方楠木正行と戦う（伝承）

貞治2年（1363）6月

太郎重頭、足利基氏に従い、苦林野合戦において敵将一人を生捕る戦功、この合戦で嫡子与市儀重、13才の初陣（同氏系図）

中世 室町時代

明德2年（1391）12月

一郎氏国（別系）、足利義満に従い、内野合戦に戦功あり。対戦山名時氏、嫡男国武同陣なるも蒙疵（同氏別系図）

応永6年（1399）

与一儀重、足利義詮の厳命により上洛次いで大内義弘の使者を勤む（同氏系図）

応永9年（1402）9月

与市儀重、幕府畠山左衛門佐基国に従い陸奥国赤館に伊達氏と戦うも物見に出て傷を負い死亡（同氏系図）

大永4年（1524）1月

近江守重近、毛呂衆等と南方（小田原北条氏）に馳参じ江戸城攻略に従う。本領安堵（同氏系図）

天文15年（1546）

近江守重近、南方（小田原北条氏）軍勢催促により毛呂、浅羽等と松山城討手に向、多和目、竜伏山永源寺開基（同氏系図、同氏略記）

永禄 5 年 (1562) 2 月

近江守重近、北条氏康、松山城攻略、此の時より小田原北条氏麾下となる (同氏系図)

永禄 7 年 (1564) 1 月

大和守太郎重吉、北条氏康麾下で、下総国国府台に里見義弘と戦い、敵將勝山豊前守を討取り感状及び太刀一口を賜う (同氏系図)

天正 18 年 (1590) 6 月

能登守本重 (後改長昌浅羽系) 北条氏政の催促に従い小田原籠城弾正完行 (本重叔父) 小田原籠城、開城後北条氏直高野山に赴く時供奉、この時出家完行房無一と号す (同氏系図)

重利 (嫡系) 北条氏照の催促により八王子籠城討死 (同氏系図)、八郎近貞 (重利叔父)、八王子籠城討死 (同氏系図)

近世 江戸時代

慶長 19 年 (1614)

能登守本重、大阪冬の陣に従う (同氏系図)

元和元年 (1615)

能登守本重、大阪夏の陣に従う (同氏系図)

寛永 3 年 (1626)

宿谷氏墓地に 5 輪塔建立される。施主銘等不祥 (同氏墓地)

寛文 6 年 (1666)

武兵衛尹宅 (太郎道重三男) 將軍家御奉公のため出府、江戸宿谷氏祖 (断家譜)

寛文 10 年 (1671)

権左衛門重本、宿谷の地に地域の人々の多幸を願い地藏尊建立 (地藏尊銘)

寛文 12 年 (1673) 2 月

太郎勝平 (葛貫宿谷氏) 指料一对所持表銘、信濃守藤原弘包、寛文十二年壬子二月吉日裏銘、武州入間郡宿屋太郎勝平所持之大和国手搔包永十一代孫作之 (中心銘)

天和 3 年 (1683)

源右衛門尹行、権左衛門重本三男、江戸宿谷氏武兵衛尹宅養子となり出府跡目相続 (断家譜)

宝永 4 年 (1707)

尹行、氏尹、比企郡大豆戸村西明山真光寺所蔵、弘法大師御自筆御影、文禄表具大破再復 (真光寺)

宝永 5 年 (1708)

尹行、比企郡大豆戸村西明山真光寺仏画二軸寄進 (真光寺)

享保 3 年 (1718) 4 月

尹行、勤柄もはばからずよからざる所行に及び改易となり、此の年播州小野に配流となる (断家譜)

享保 8 年 (1723) 12 月

尹行、播州小野の配所に於て没す。葬同所光明寺 (断家譜)

明治 20 年 (1887)

森田宿谷氏 (大谷木) 故地を去る。

大正 2 年 (1913)

葛貫宿谷氏、故地を去る。

以上、大雑把で大変恐縮の限りであるが、発詳以来約 800 年に及ぶ、宿谷氏事蹟を集成してみた。不備ではあるが集成してみると同氏の事蹟は、中世が大半である。特に鎌倉時代の事蹟は同氏の全盛期である事に気付かれる事であろう。

この事は、発詳以来、武門の家一筋に生きて事を物語っている。つまり、宿谷氏とても例外ではなく、多くの在り地土豪同様必死に生き残りを賭けた事蹟である。事蹟でみる限りであるが、同時代の同郷の毛呂氏にも比肩し得る事蹟であろうと筆者は推考するものである。